



## おきなわせん 沖縄戦は、どんな戦争だったの



一般住民も戦闘に巻きこまれ、学校の生徒も多く  
の犠牲者を出した、悲惨な戦いだったんだよ。

1945年3月26日、アメリカ軍は慶良間列島に上陸し、4月1日には沖縄島中部の西海岸に上陸して、島を南北に分断しました。各地ではげしい戦闘が行われ、海上のアメリカ軍艦に対しては、九州の基地から飛んできた特攻機が、体当たり攻撃をくり返しました。日本軍は、5月下旬に首里をうばわれて、総くずれになり、4万人の兵士と10万人の住民が、島の南部に移動しました。

### 一般住民や生徒も、軍に組みこまれていた

日本陸軍の上層部は、沖縄戦を「本土での決戦を準備するための時間かせぎ」と考えて、沖縄を見捨てていました。そうとは知らず、沖縄の17～45歳の男子2万500人が召集されて、軍に組みこまれました。その中には、師範学校・中学校・水産学校の男子生徒1687人と、女子師範学校・高等女学校（今の女子中学校）の女子生徒543人が、ふくまれていました。

### 沖縄島南部の激戦で、たくさんの方が死んだ

島の南部では、陸上からの攻撃と、海上の軍艦からの砲撃を受けて、たくさんの方が死にました。洞窟にかくれた人も、爆弾を投げこまれたり、火炎放射器で焼かれたりして死にました。日本兵によって洞窟から追い出されたために死んだ住民や、スパイの疑いをかけられて殺された住民、集団で自殺した住民も、たくさんいます。6月23日に牛島司令官が、摩文仁の丘の司令部で自殺しました。戦闘は8月20日ごろまで続き、県外出身の軍人6万5908人、県内出身の軍人・軍属（軍に所属する一般人）2万8228人、一般住民約9万4000人、アメリカ軍人1万2520人が死にました。ひめゆり部隊とよばれた従軍看護婦隊に所属した女子生徒320人のうち、生き残ったのは十数人だったそうです。